

発行日／平成 27 年 6 月 1 日

発行所／公益社団法人大阪府建築士会

540-0012 大阪市中央区谷町 3-1-17

#### 岡本会長の主な動静

- 4/15 香港政庁貿易発展局と意見交換
- 20 運営委員会
- 22 正副会長会議、理事会
- 23 中央建築士審議会(東京)
- 24 日本建築積算協会懇親会
- 28 プレハブ建築協会懇親会
- 30 本会の将来ビジョン検討委員会
- 5/ 8 正副会長会議(連合会)
- 5/15 黄綬褒章伝達式及び拝謁
- 18 褒章インタビュー(建設通信)
- 19 総務企画委員会(連合会)
- 20 日本建設業連合会懇親会

#### 春の褒章

##### 岡本会長が黄綬褒章を受章



岡本会長は春の褒章において、長年建築関連業務に携わり鉄道関係施設を中心によりよい建築物やまちづくりのために精進を重ねられたこと、並びに本会会長、近畿建築士会協議会代表会長、日本建築士会連合会副会長としての社会貢献活動等もあわせて評価いただき、黄綬褒章を受章されました。5月15日に国土交通省で褒章伝達式が執り行われ、同日に皇居において拝謁されました。

#### 理事会

##### 平成 26 年度決算

平成 26 年度の事業収支決算は、耐震講習会、耐震評価業務が予算を大きく上回る収入があり、建築士試験、定期講習、登録センター、CPD、府立病院機構支援等の受託事業も順調に収入できたことなどから、947 万円(寄附金を除く)の黒字となり、全額を積立が滞っている職員退職金積立に繰り入れました。

また、寄附金収入の 580 万円は特定資産に繰入れ、新たに尾亀清四郎百寿基金を創設しました。

これらにより、本会の平成 26 年末の正味財産額は昨年度の 16,615,938 円から 22,042,306 円に増加しました。

公益事業の公 1～公 3 の 3 区分の当期事業収支差引はいずれも赤字で、合計 8,601,956 円のマイナスとなり、収益事業の収支差引の 50%の 103,825 円を公益事業に振り分けても公益事業はなおマイナスとなることから、公益認定法に定める収支相償の規定を満足しています。

#### 運営委員会

##### 一級建築士試験申込状況

平成 27 年の一級建築士試験申込の受付が 5 月 11 日に終了しました。

全国の申込者数は、学科 33,101 名(昨年 32,637 名)で、設計製図 4,857 名(昨年 5,129 名)で、昨年より減少しました。また、大阪の申込者数は、学科 2,536 名(昨年 2,610 名)、設計製図 395 名(昨年 404 名)です。

#### 運営委員会

##### 携帯型建築士免許証の普及状況

6 月 25 日に施行される改正建築士法では、建築主からの求めに応じた建築士免許書の提示が義務化されております。

建築士免許証は平成 20 年度に、証書形式から写真付の携帯型カードに変更されて以降、全国の一級建築士 60,000 名、大阪府登録の二級建築士 4,250 名、木造建築士 140 名が既に携帯型免許証を使用されています。日常の業務におきましても、建築士の資格確認のため免許証を提示する機会が、今後より一層増えていくものと思われますので、携帯型免許証への切り替えを是非ご検討ください。

#### 研修委員会

##### 監理技術者講習会及び CPD 制度 PR の取り組み

本会では、建築士会版監理技術者講習開催を 8 月頃に予定していますが、講習対象者の多くは施工管理技士であり、建築士以外への広報が必要となっています。そこで、本会理事の皆様のご協力のもと、大阪府内約 120 社の建設企業へ直接訪問による周知活動を現在行っています。また、多くの官庁では、工事の総合評価落札方式において、CPD を加算対象としており、講習会の PR と併せて建築士会 CPD 制度の概要説明や説明会の開催受付の PR を行っています。

#### 研修委員会

##### 建築士定期講習の受講状況

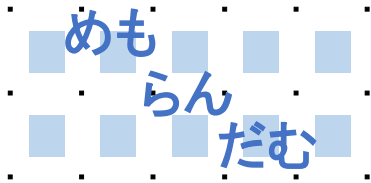
5 月 18 日に開催しました本年度第 1 回の講習、および 7 月 30 日、9 月 16 日に開催予定の講習は、いずれも予定していた申込締切日前に 800 人の申し込みがあり、早々に満員となりました。

11 月 12 日、12 月 22 日開催の講習はまだ余裕がございますので、本年度が受講対象の方はお早めにお申し込みください。

#### 社会貢献委員会

##### 平成 27 年度ヘリテージ事業に対する文化庁からの補助決定

本会が文化庁に交付申請していた平成 27 年度ヘリテージ事業の補助について、この程 4,848 千円の補助金の交付が決定しました。その内訳は、今年で 3 回目となるヘリテージマネージャー育成事業、伝統的な建築やまちなみのガイドブックを作成する情報発信事業などです。ヘリテージ部会では 5 月 12 日に会議を開き、本年度の企画事業内容の打合せを行いました。



## 吹田市セミナー「知って得する！！リフォーム講座」

日時 平成27年4月25日

阿多友子(社会貢献委員会耐震部会委員)

本会耐震部会では、行政と連携した木造住宅耐震性向上の推進を目的として、府民からの耐震診断の受託、出前講座の開催、本会主催・共催イベントの企画、大阪府まちなご耐震化支援事業への参入等、様々な活動を行っています。耐震啓発活動の一環として、去る4月25日(土)に、吹田市と共催により、「リフォーム講座」を開催しました。

講座は吹田市民を対象として、市の広報誌やリーフレットの配布により参加者を募り、22名の市民が参加されました。講座は、耐震診断・補強の他、バリアフリー、エコリフォーム、省エネ住宅ポイント制度について解説し、リフォームを検討されている方に耐震も同時に考えて

いただくという趣旨でお話をさせていただきました。

また、吹田市担当者からは、耐震診断等の補助制度について説明いただき、参加者に耐震に関する有益な情報をお届けすることができました。

個別相談会では、実際に耐震を考えているがどこに相談したらよいかわからない、耐震診断を受けたが補強工事の金額や工事内容について聞きたいなどの相談があり、本会耐震部会の委員が相談員として対応しました。

吹田市内には、施工まで対応できる耐震技術者が少なく、今後、市の課題として市内業者の育成が必要であるとのことでした。

今後も、耐震補助制度を運用している各市町村、本会、市内事業者が協力してこのような木造住宅耐震関連セミナーを開催し、市民の安全で安心な住まいづくりに貢献できる活動を行っていきまです。建築士会会員の方で耐震部会の活動にご賛同いただける方は部会に加入して、ご協力をお願いいたします。



## 「赫窯(かくよう) 古代窯業と明日香村を訪ねて」に参加して

日時 平成27年3月31日

吉田勝也(事業委員会シニア分科会委員)

本会シニア分科会によるシニアサロン第53回例会として22名が参加して赫窯(かくよう)等の見学会が行われました。

最初は橿原考古学研究所附属博物館です。ここは三つの展示室からなり、第1展示室は旧石器から弥生時代、第2展示室は古墳時代から飛鳥時代前期、3展示室は飛鳥時代以降奈良時代が展示されています。いずれも発掘により出土した考古資料ですが国宝、重要文化財を含む見ごたえのある展示となっています。特に古墳時代の埴輪は数多く展示されていますが出土品を修復して復元しています。特殊円筒埴輪(レプリカ)は高さ2m、直径1mほどの巨大なもので1個の制作に3か月ほどかかるようですが、これが古墳の玄室の周囲に敷き

詰められています。権力と財力のすごさがしのべられます。

石舞台の近くで昼食を済ませ、明日香村上居にある奈良教育大学名誉教授脇田宗孝師の窯「赫窯」に向かいました。坂道を20分ほど歩いて赫窯に着き、まず住宅で抹茶を頂いてから工房で脇田先生の講演を聞きました。

やきものの発生と伝播の話があり、縄文土器から奈良三彩の土器の製法の話、博物館に展示されていた特殊円筒埴輪(レプリカ)制作の話を聞きました。

講演の後窯を見学してから山を下りたところにある石舞台を見学しました。石舞台は蘇我馬子の墓ともいわれ現在残っているのは玄室のみですが、巨大な石を組み立てたものです。石舞台を背景

に集合写真を撮り見学会の終了となりましたが、古代ロマンに夢をはせることが出来た一日でした。

